

第7回大和郡山病院地域協議会

開催日時 平成30年10月11日(木) 14:00～15:05

場所 大和郡山病院 3階講義室

議題 1.活動状況報告
2.意見交換会

出席者 院内委員

松村正彦(院長)、北大路正顕(副院長)、藤村和代(副院長)、徳田寛(事務部長)、柳崎朱美(看護部長)、前川紋子(副看護部長)、福永直美(訪問看護ステーション看護師長)、今中俊之(総務企画課長兼経理課長)
砂原直美(主任医療社会事業専門員)、今村卓司(外科診療部長)

外部委員

松本光弘(大和郡山市医師会会長)、大野忠彦(大和郡山市歯科医師会会長)
倉岡伸次(大和郡山市薬剤師会会長)、上田亮(大和郡山市福祉健康づくり部部長)、釜谷宗宏(大和郡山市地域包括支援センター所長)、森川百合子(大和郡山市医師会訪問看護ステーションやすらぎ管理者)、野田和世(患者・患者家族代表)

順不同、敬称略

司会(今中総務企画課長兼経理課長)

・第7回 JCHO 大和郡山病院 地域協議会 開催について

開催の挨拶(松村院長)

前回の会議の時にご指摘いただいた、大和郡山市の在宅医療、介護連携に積極的に参加するようにとの事については、大和郡山市の「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携マニュアル」の作成に参加し、地域医療連携室の広報が十分でないとの事については、地域医療連携室便りを創刊した。また、地域医療連携室を5階から1階に移動を予定しており、皆様に利用していただきやすい環境を整備する。この会議でいただいた意見を病院の運営・経営に活かしていきたい。

委員紹介

新任の委員着任にあわせ改めて院内、院外委員の紹介。

議題1(病院紹介)

活動状況報告

外科 活動状況報告 外科診療部長 今村 卓司

議題2（意見交換）

森川訪問看護ステーションやすらぎ管理者

誤嚥性肺炎で入院が必要になる患者さんが多く、主治医か看護師から大和郡山病院に連絡して連携をしている。

他府県の患者さんが通院困難になって来ていたので主治医から大和郡山病院に相談をしていた所、患者さんが発熱した時にスムーズに連携ができたので入院となった。患者家族も以前は在宅を希望されていたが患者さんの状態も変わっていくので現在は、入院での看取りを希望されている。大和郡山病院との連携が出来ているので在宅と入院を患者さんの状態により判断できるので助かっている。

老々介護となっている患者さんをレスパイト入院する事で家族の負担が軽減出来ている。訪問看護ステーションとしても大和郡山病院との連携で助かっている。

野田患者・患者家族代表

社会保険大和郡山総合病院の時から受診しており、子供も受診している。地域に大きい病院があるので安心である。病院の存続問題の時には心配したが現在も継続して診療している所以市民としては安心である。

松村院長

前院長から病院存続問題の時に皆さんにご協力していただいて、現在も診療出来ていると聞いている。

松本医師会長

大和郡山市民の方々も地域の中心的な医療機関として頑張ってもらいたいし、期待もしているが、良くない話も聞くので心配している。外から見えにくい病院であるとの印象がある。紹介し入院治療を受けた患者さんからは看護師も親切で良くしてもらったとの声を多く聞く。しかし、入院しないと良さが分からないのではないかと、他院が行っているような市民公開講座を定期的実施し市民と医師との顔の見える関係を築くことが必要ではないか。

勤務医の先生も患者さんが退院後にどのような在宅サービスが必要であるか、必要な在宅サービスを受けるには退院までにどのような手続きが必要かといったことの知識を持ち退院後も切れ目のなく在宅サービスが受けられるように、病院として取り組んでもらいたい。

病診連携での外来栄養指導を実施していなかったが、要望したことで実施出来て患者さんも感謝していた。今後も地域のニーズに迅速に対応して欲しい。

10月から小児科の夜診を始めた事は迅速な対応で感謝している。

松村院長

退院の許可は医師がし、退院日は看護師が在宅サービスを受ける体制が整ってから決めるように医師には話をしているが浸透していないのかもしれない。退院支援だけでなく入院支援も含めた体制を整えつつあるので看護部長から話をします。

柳崎看護部長

退院後にスムーズに在宅サービスが受けられるように、入退院支援看護師を非常勤も含めて3名を配置し、ケースワーカーと連携している。看護師が医師のカンファレンスに参加し、症例の振り返りをする事でさらにスムーズに在宅サービスに移行出来るようにしている。

健康増進については、健康管理センターで行っている特定保健指導は30から40件増加している。

市民公開講座については、以前から開催しているJCHO健康教室に今年度から医師も講演しており、大和郡山市の広報で告知をしている。保健師による「まちの健康教室」を駅前商店街で毎月開催しており、保健所の方も関心を示して見に来ている。当院には認定看護師が5分野8名おり、救急認定看護師が学童保育所でBLSの講習を行った。また、感染認定看護師は学校の保健室に行っている。

先程、森川訪問看護ステーションやすらぎ管理者からの話にあったとおり、誤嚥性肺炎はこれからの高齢化にとって大きな事である。奈良県の方針としても摂食嚥下に力を入れて欲しいとの事です。当院は昨年からはSTが配置された。また、JCHOの他病院にいる摂食・嚥下障害認定看護師に大和郡山病院で講演を行い近隣病院の看護師も参加された。

保助看法の一部が改正されて医師の診療補助として特定行為が認められるようになった。JCHOが指定研修機関となっており、当院でも創傷管理関連研修の修了者1名と5名が感染に係る薬剤投与関連・血糖コントロールに係る薬剤投与関連・創傷管理関連の研修を受講中である。創傷管理関連研修修了者は在宅でデブリードマンを行っており、今後地域の先生方にも特定行為を行える看護師を活用して欲しい。

松本医師会長

看護部長からの話で色々取り組んでいる事は分かったが、地域の医師には伝わっていない。他の病院は大々的にチラシを配付したりしている。広報で告知するだけでなく地域の医師に訴えかける方法で告知する必要がある。

砂原主任医療社会事業専門員

「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携マニュアル」の作成に携わり、完成した時に医師全てに説明し手渡しした。患者さんが早く帰りたいとの希望から在宅でのサービスが整う前に退院する事があるので、現在は入院3日以内にケアマネジャーと連携をとることで入院前の状況と退院後に必要となるサービスの共有をしている。退院支援カンファレンスを昨年は月80名行い、退院支援は月170名をケースワーカー3名行っている。

松本医師会長

マニュアルが完成し。退院支援のシステムが作り上げられて、生かされて来ていると思う。これから発展させていって欲しい。

福永訪問看護ステーション師長

在宅医療の認識が病棟の医師・看護師と違っている場合があるので、退院前訪問を積極的に実施し、患者さんにとって良いサービスを提供したい。

前川副看護部長

看護の力で在宅を支えたいと考えている。がん化学療法看護認定看護師ががん看護外来と在宅療養相談を行っている。

徳田事務長

近くに奈良県総合医療センターが出来て大和郡山病院は大丈夫かとの意見をいただくが当院の良い所とできる事を地域の先生及び市民の皆さんに認識していただけるような広報をして行きたい。

釜谷大和郡山市地域包括支援センター所長

「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携マニュアル」の作成に協力していただきありがとうございます。11月に市内の病院に集まっていただき課題の検討等を行います。

上田健康づくり部部長

小児科の夜診を金曜日に初めていただき感謝しております。市長も感謝しております。夜診を開始した事の広報で市が出来る事が有れば言っていただきたい。

(閉会挨拶)

北大路副院長

外部委員の先生方、多忙の中、地域協議会にお集まり下さりありがとうございました。ご指摘を踏まえまして、地道に改善していきます。特に広報が足りないとの事を心がけて改善していきます。

本日はありがとうございました。

以上をもって平成30年度第1回JCHO大和郡山病院地域協議会を終了した。